



会報



DISTRICT 253
CLUB BULLETIN

創立 S34.6.9 承認 S34.6.27

鶴岡ロータリー

THE ROTARY CLUB
OF TSURUOKA

う め

例会場 鶴岡市馬場町 物産館3階ホール
例会日 毎週火曜日 12:30-13:30
事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所内
電話 0235 (2) 5775

会 長 上 野 三 郎
幹 事 佐 藤 順 治

全人類を 結びつけるために 奉仕せよ

SERVE TO UNITE MANKIND

W. ジャック・デービス

1977~78 国際ロータリー会長

第 949 号

1978. 3. 14 (火) (曇)

No.36

本日のプログラム

1. 点 鐘
2. ロータリーソング (奉仕の理想)
3. ビジター・ゲスト紹介
4. 会 長 報 告
5. 幹 事 報 告
6. R.A.C. ハワイ旅行について 市川 輝 雄 君
7. ダイアンの近況 三 井 徹 君
8. 次期役員会について 三 井 健 君
9. ゲストスピーチ 地方文化と演劇のあり方劇団「麦の会」
代表 山崎 誠 助 氏
10. 出 席 報 告
11. 点 鐘

■ ビジター紹介

長谷川 勇 君 (豊 製 造)	佐 藤 成 生 君 (金物配布)	} 鶴岡西 R.C
帯 谷 義 雄 君 (仏 教)	加 藤 広 君 (電気工事)	
菅 原 幸 雄 君 (プレハブ)		

鶴岡 R.A.C ハワイ研修団員 若公寿也君、斎藤優子さん
新 入 会 員 渡 部 司 君

■ 会長報告

1. 来る5月14日～5月18日の東京大会を機会に当クラブと関係の深い海外・国内ロータリアンとの交換の場を持つということ、さきに安藤定助君を委員長として準備委員会を設けましたが、その第1回目の委員会が去る3月7日に開かれ交換会の持ち方について種々検討されました。その内容についてはいづれ安藤委員長から発表がある筈です。
2. 去る3月11日(土)山王プラザにおいて台中港区 R.C 訪問団の離散会が行われました。張君の製作された記録映画を観賞したあと、中江君のご好意による中華料理を味わい、又お互いの写真を交換しながら、彼地でのいろいろの思い出話しのうちに楽しい時間を過しました。

■ 幹事報告

1. 例会変更 酒田東 R.C

来る4月6日(木)の当クラブ例会は山形西、遊佐、酒田東3クラブ合同例会のため次の通り変更

と き 4月2日(日) 12.00

と ころ 羽黒山山頂 斎館 登録料 4,000円

2. 会報到着 (1) 台中港区 (2) 朝日 R.C

3. 休会のお知らせ 次週火曜日(21日)は「春分の日」でありますので休会となります。

■ ゲストスピーチ 地方と演劇 山崎誠助君

1. 演劇の発生と発展

今日、芝居気の有る無しは特殊な才能のようにいわれて、演劇は極めてプロフェッショナルなものと考えられ勝ちなのだが、その基本的条件は、あらゆる人間の持っている、いわば本能ともいうべきものに根ざしている。

それは言葉や文字以前のコミュニケーションが、身振り手振りによって果たされることを考えても理解できることである。

従って、演劇の源は深く長く民衆の生活に根ざして育った。その形としての初期は呪術的行事、神に捧げる祈りの中にあつたものであろう。その原型は今

日地方に伝わる民族芸能の中にも見ることができる。そうしたものが、上層階級の娯楽として取り上げられ、庇護を受けて、次第に形式を整えていった経過を第2期とよぶこともできよう。

やがてそれが舞台という仕組まれた空間を必要とするまでに成長して第3期となり、民衆の中へ入って見世物としての使命を果たす第4期の今日にまで発展したのである。ともかくも演劇が、飽くまでも民衆の個々の心身と、地方の具体的な生活の土壤に根ざして芽生え、育ったものであることは間違いがない。

2. 演劇の本質

演劇は刺戟の戟だといわれる。

悲劇であれ喜劇であれ、人間生活のダイナミックな変転が、演劇の要素として必要である。築地小劇場の創始者小山内薫は、演劇を危機の芸術とよんでいる。人間の運命や境遇上の波瀾が、変転しながら終曲（幕切れ）に向って進んでいて、いけば危機の中の危機、それが舞台上に展開されて演劇だということである。

3. 戯曲と演劇

戯曲という言葉は、中国演劇から生れた言葉であり、今日は演劇の台本と同義に考えられているが、もともとは中国における雑戯（劇）の中の歌曲のことだといわれる。

中国演劇の3要素、科、白、曲（歌）の中で、歌曲の占める割合が乏しくなっても、習慣的に戯曲の言葉が用いられているという。戯曲は必ずしも形として残されているものだけではない。即興を含み伝承によって伝えられている無形戯曲もあり、有形戯曲の中には、上演することの困難な読むだけで満足される、いわゆる文学としてのみ存するものもあらわれている。

4. 今日の演劇——その基礎となったもの

今日行われている演劇の流れをたずねれば、大別して4つの系譜があげられよう。古典劇としての能、狂言についてはさておき、まず歌舞伎劇であるが、安土・桃山時代、出雲のお国に発するといわれるこの劇形式は当初観客が河原の芝に居て観劇した芝居の位置から江戸時代300年の歴史の中で、大衆の娯楽として特異な発達をとげた。しかし明治期に入って、内容の前近代性などから民衆の欲求に応えることができず、一時衰退を招いた。

この時期、そうした流れの中に生れたのが新派劇である新派は民権鼓吹の壮土劇に始まり、日清日露の戦争物で人気を集め次第に充実を見たが、その思想性の乏しさからやがては行きづまりをきたした。明治末期に至って、登場したのが新劇である。

新劇はイブセンの「人形の家」にはじまるといわれる。その影響を受けて我国では坪内肖遙等が文芸協会を結成して活動し、その流れの中に生れた島村抱

月の芸術座は、名女優とうたわれた松井須磨子を擁し、トルストイの復活を上演して大きな成功を収めた。しかしその際歌われた「カチューシャの唄」が、あまりにも津々浦々に伝えられたことから、次々とそのパターンの踏襲に陥して支持を失った。

大正13年頃、小山内薫、土方与志等を中心として創立された築地小劇場は、昭和4年分裂を招くまで数々の海外名作或は創作の上演を果たし大きな足跡を残した。それ以後の我国新劇界は多少なりともその系統を引かぬものはないといっている。今日、映画、ラジオ、テレビという新しい方式の発達に伴い、これらの系譜は次第に融合の経過をたどりつつある。

5. 新劇の本質

新劇は本質的にいって素人の劇であり、又問題劇であるともいわれる。人生や社会の問題をとらえ、舞台を通してアピールし共に考えることが意味ともいえる。

6. 地方と演劇

我国の文劇芸術はあまりにも中央集権的である。そうした中でいろいろな顔負けや行きづまりが生じている。演劇活動についても、これからはふるさとの歴史や生活の中から課題を発掘し、その顕彰を通して新しい時代の芽を育て直さなければならない。

いわば原始への指向であり、復活である。フランスの劇団が、地方の町への駐在制をとっていることなど、他山の石とする価値があろう。

(鶴岡市家中新町11-62 劇団「麦の会」代表)

出席報告

本日の出席	会員数	70名	欠席者	阿部(公)君、半田(浩)君、石倉君、玉城君、板垣(広)君、中野(清)君、佐藤(昇)君、佐藤(忠)君、丹下(誠)君、高橋(良)君、津田君、諸橋君、笹原君、石川君
	出席数	56名		
	出席率	80.00%		
前回の出席	前回出席率	78.57%	メイクアップ	阿部(襄)君、佐藤(忠)君一酒田東R.C 五十嵐(三)君、石川君、市川君、山口君、手塚君、富樫君一鶴岡西R.C 中江君一酒田R.C
	修正出席数	64名		
	確定出席率	91.43%		